

平成 15 年度新農薬実用化試験で注目された 病害虫防除薬剤

日本植物防疫協会試験事業部 あらい 新井 ますみ 真澄・かどた 門田 けんご 健吾

平成 15 年度の新農薬実用化試験については、10 月 21 日の寒冷地果樹試験成績検討会を皮切りに、稲・野菜関係地域成績検討会ならびに総合判定会議、果樹等試験成績検討会、12 月 16～17 日の生物農薬試験成績検討会まで順次開催され、依頼された薬剤の各種病害虫に対する効果や薬害、使用方法の検討が行われた。

ここでは、平成 15 年度に依頼された試験の中で、注目された薬剤ならびにその傾向について紹介する。

I 新農薬実用化試験の動向

【殺菌剤】

本年度依頼された試験薬剤は 225 剤（生物農薬・展着剤を除く）で、複数の作物、病害に対して延べ 1,959 件の試験が公的試験研究機関等で実施された。薬剤数および試験総件数ともに昨年とほぼ同じであった。試験薬剤中、受付時に登録のなかった新規化合物を含む薬剤数は全体のおよそ 16% で、こちらも数年間大きな変動はみられない（図-1）。

イネ・ムギ関係では昨年同様、新規化合物のオリサストロビン、チアジニルを含む製剤、プロベナゾールと殺虫成分との混合剤などが多くみられ、また主要病害のいもち病や紋枯病だけではなく、その他の糸状菌病害や細菌病にも試験が試みられた。

本年度は全国的な天候不順で、いもち病等の発生が極めて多い地域もあり、試験薬剤にとっては厳しい条件の試験となったが、どの薬剤もおおむね高い防除効果が得られており、最近の有効成分の実力の高さをかいま見た年であった。この天候において、試験遂行にもご苦労が多かったと思われるが、試験実施にご尽力いただいた関係試験機関には、この紙面をお借りしてお礼申し上げたい。

野菜・花き類を対象とした試験では、前年比 2 割増であった 14 年度と比べると、やや減少した。昨年度から依頼のある、KUF-1204 顆粒水和剤（新規化合物）、MTF-753 フロアブル（ペンチオピラド）、アミスター

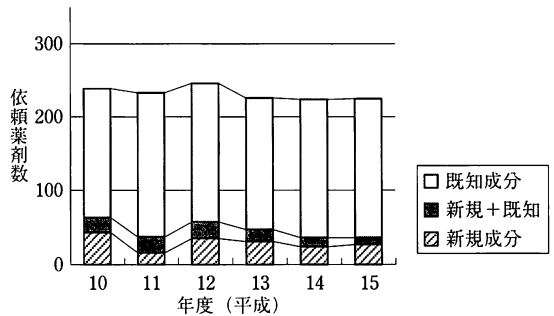


図-1 殺菌剤効果試験依頼薬剤数の推移

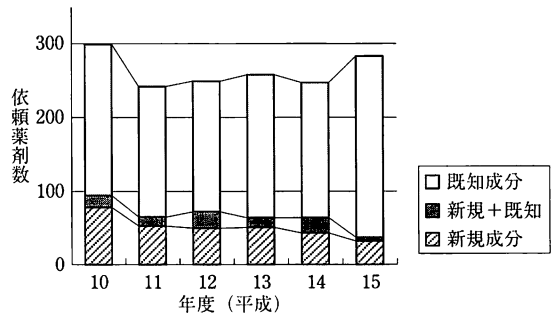


図-2 殺虫剤効果試験依頼薬剤数の推移

20 フロアブル（アゾキシストロビン）、カンタスドライフロアブル（ボスカリド）では豆類の各種病害を対象にした試験も多く実施された。

落葉果樹、寒冷地果樹、常緑果樹、チャ、芝草の関係では、特に芝草に関する試験件数の増加が目立った。

【殺虫剤】

本年度依頼された薬剤数は 287 剤で（生物農薬・展着剤を除く）、それぞれ複数の作物・害虫に対して延べ 2,990 件の試験が実施された。新規成分の単剤は 32 剤、新規成分と既知成分の混合剤は 5 剤であった（図-2）。スタークル/アルバリン（ジノテフラン）、ダントツ（クロチアニジン）、ハチハチ（トルフェンピラド）といった広範なスペクトルを持つ有効成分の関連製剤が、2002（平成 14）年に相次いで登録を取得し、新規成分関連の薬剤数は減少したものの、既存剤の適用拡大を中心に総薬剤数は昨年より 40 件ほど増加した。

The Remarkd Pesticides for the Efficacy Study in Japan (2003).
By Masumi ARAI and Kengo KADOTA

（キーワード：殺虫剤、殺菌剤、JPPA、新農薬実用化試験、平成 15 年度）

表-1 平成 15 年度に初めて依頼のあった新規化合物 (病害防除)

薬剤コード・成分	依頼作物・病害	備 考
NC-224 フロアブル 200 g/l	ジャガイモ・トマト： 疫病 ダイズ・キュウリ・ハクサイ・ホウレンソウ・ブドウ：べと病	胞子形成，胞子発芽を阻害し，強い抗菌活性を有する
NNF-0222 顆粒水和剤 20%	テンサイ：褐斑病， リンゴ：黒星病・モニリア病 チャ：褐色円星病・炭疽病・もち病	予防・治療効果を有する
SYJ-446SC 250 g/l	ジャガイモ・トマト： 疫病 キュウリ・ハクサイ・ブドウ：べと病	卵菌類による病害に卓効を示す 既存剤の耐性菌にも有効 予防効果に優れる

試験分野別に見ると，イネ・ムギ関係では，昨年同様に殺虫殺菌剤混合の育苗箱施用剤を中心に，様々な処理方法で試験が実施された。野菜関係は，試験数では昨年とほぼ同等であったが，既存剤を中心にこれまで登録を取得していなかった作物・害虫に対する適用拡大試験が多く見受けられた。落葉果樹分野では，カメムシに対する試験が依然として多く，新規成分を中心にハダニ関係の試験も実施され，40 件ほど増加した。また，チャ分野ではウスミドリカスミカメ(ツマグロアオカスミカメ)やクワシロカイガラムシ，コミカンアブラムシといった対象害虫で多くの試験が実施され，薬剤数・件数とも増加した。

II 注目される新規化合物を含む薬剤

〔殺菌剤〕

平成 15 年度に試験された依頼申請時に未登録の新規化合物を含む薬剤(生物農薬を除く)は 36 剤で，単剤は 27 剤，混合剤は 9 剤であった。これらのうち本年度初めて依頼のあった成分は 3 剤であった(表-1)。NC-224，NNF-0222，SYJ-446 は各種病害に高い防除効果を示しており，来年度以降の判定が待たれるところである。

〔殺虫剤〕

平成 15 年度に試験された依頼申請時に未登録の新規化合物を含む薬剤(生物農薬を除く)は 37 剤で，単剤は 32 剤，混合剤は 5 剤であった。これらのうち本年度初めて依頼のあった成分は 9 剤であった(表-2)。本年度初めて依頼のあった薬剤のうち，AKD-2136 フロアブル(アグロカネショウ(株))・BCI-033 フロアブル

表-2 平成 15 年度に初めて依頼のあった新規化合物製剤(殺虫剤)

薬剤コード・成分	依頼作物・害虫	備 考
AKD-2136 フロアブル 新規化合物 20.0%	リンゴ，カンキツ：ミカンハダニ，リンゴハダニ，ナミハダニ，チャノホコリダニ，ミカンサビダニ，リンゴサビダニ	殺ダニ剤
BCI-033 フロアブル 新規化合物 30.0%	ナシ，モモ，リンゴ，チャ：リンゴハダニ，ナミハダニ，カンザワハダニ，モモサビダニ	殺ダニ剤
NC-512 フロアブル 新規化合物 30.0%	ナス，イチゴ，ナシ，モモ，ブドウ，リンゴ，カンキツ，チャ：ミカンハダニ，リンゴハダニ，ナミハダニ，カンザワハダニ	殺ダニ剤
OK-0101 水和剤 新規化合物 20.0%	リンゴ，カンキツ：ミカンハダニ，ナミハダニ	殺ダニ剤
BCI-031 粒剤 新規化合物 1.5%	イネ：ウンカ類，カメムシ類	半翅目害虫を対象 湛水散布での防除をねらう
DKI-0001 新規化合物 5.0%	イチゴ，レタス：ヨトウムシ，ハスモンヨトウ，オオタバコガ	鱗翅目を対象
NEU-01 粒剤 リン酸第二鉄 1.0%	野菜・花き・カンキツ：ウスカワマイマイ，チャコウラナメクジ	マイマイ・ナメクジを対象に誘殺
RM1170 乳剤 新規化合物 80.0%	ナス，イチゴ，パセリ，ナシ，カンキツ：ハダニ類，チャノホコリダニ，サビダニ類	殺卵効果を有する物理的防除剤
SI-0205 フロアブル 新規化合物 1.0%	ナシ，ブドウ，リンゴ：チャノキイロアザミウマ，ハマキムシ類	鱗翅目とアザミウマを対象

生物農薬を除く。

(バイエルクロップサイエンス(株))・NC-512 フロアブル(日産化学工業(株))・OK-0101 水和剤(大塚化学(株))は，いずれもダニ類対象で，高い効果が認められていた。BCI-031 粒剤(バイエルクロップサイエンス(株))は，水稻の半翅目害虫を対象にした浸透移行性を有する剤で，湛水散布で出穂前後のカメムシ防除をめざして試験が行われていた。DKI-0001 フロアブル(デュボン(株))は，ハスモンヨトウなどの大型鱗翅目害虫

表-3 平成 15 年度に新たに依頼のあった生物農薬（病害防除）

薬剤名	成分名	対象病害虫名
(虫害防除) ICB-04 ICB-05	ククメリスカブリダニ コレマンアブラバチ	アザミウマ類 アブラムシ類
(病害防除) IPB-001	<i>Coniothyrium minitans</i> 1 × 10 ⁹ cfu/g	キャベツ：菌核病

を対象に、試験例はまだ少ないものの、高い効果が認められていた。

また、一昨年度から試験中の、NNI-0001 顆粒水和剤（日本農薬(株)）は、ハスモンヨトウなどの大型鱗翅目害虫にも、高い効果が認められる食害阻害剤で、多くの作物・害虫で実用性ありの判定を受けた。

Ⅲ その他注目された事項

1 生物農薬

殺菌剤分野では 15 剤について延べ 152 件が試験された。その内訳は稲の種子消毒剤が 4 剤、バチルス・ズブチリスを有効成分として主に野菜類の灰色かび病、うどんこ病を対象に 5 剤、土壌病害対象に 4 剤、その他 2 剤であった。新規に依頼のあった薬剤は IPB-001（石原産業(株)）の 1 剤であった（表-3）。

また、本年度は、インプレッション水和剤（バチルス・ズブチリス：野菜類のうどんこ病、トマト・ナスなどの灰色かび病），“京都微研”キュービオ ZY（ズッキーニ黄斑モザイクウイルス弱毒株：キュウリのズッキーニ黄斑モザイクウイルスの感染による萎凋症）が新規登録された。

殺虫剤分野では 16 剤について 75 件が試験された。登録での適用作物がグループ化されたことや、既存剤の開発が一段落したため、薬剤数・試験数とも前年のほぼ半数に減少した。

未登録の新規剤は 7 剤で、そのうち、ICB-04（ククメリスカブリダニ）と ICB-05（コレマンアブラバチ）の二つが天敵の種としては既に登録があるものの、石原産業(株)が初めて試験する天敵だった（表-3）。

なお、本年度新規登録された生物農薬は、アリガタ（アリガタシマアザミウマ）・スリパンス（デジェネランスカブリダニ）・スパイカル（ミヤコカブリダニ）・ハマキ天敵（顆粒病ウイルス混合剤）の 4 剤だった。

また、2003（平成 15）年 3 月 10 日の改正農薬取締法施行に合わせ、殺菌剤では 2 剤、殺虫剤では天敵・微生物

製剤 29 剤（BT 除く）で、野菜類もしくは果樹類（剤により施設栽培に限定）として、対象作物をグループ化して、広範な作物に適用拡大された。この適用拡大により、生物農薬を使用できる作物が大幅に増えたことは、喜ばしいことである。

2 植物の抵抗性を誘導する薬剤

オリゼメート（プロベナゾール）、バイオン（アシベンゾラル-S-メチル）、ブイゲット（チアジニル）は病原菌に対する直接的な殺菌または静菌作用はなく、植物体に処理されることにより、抵抗性を増強させて、発病を抑制することはよく知られている。このような作用性をもつ剤は一般的に病原菌に直接作用しないため、対象病害の適用幅が広い、耐性菌が出現する可能性が低い等の長所があるとされている。これら 3 剤はいもち病をはじめとするイネの病害に対して有効で、根からの吸収移行に優れていることから、粒剤を中心に各種の混合剤が開発されている。一方、野菜類に対してはこの抵抗性誘導を作用機作とする成分はプロベナゾールの粒剤が先行して開発され登録されているが、最近、新しい剤が試みられているので紹介する。

AKD-5121 液剤（アグロカネシヨウ(株)）は成分がオオイトドリ抽出物であり、植物に散布されると病害に対する抵抗性を誘導することが確かめられている。本剤は「ミルサナ」という商標でエクアドル等では登録を取得済みあり、また米国 EPA においても非食用分野で登録され、引き続き食用登録の準備を行っているところである。今年度、キュウリ、バラうどんこ病に「実用性あり」と判定され、イチゴのうどんこ病にも試験を継続中である。

MBF-123（丸和バイオケミカル(株)）はオリゴサッカロイドを有効成分とする製剤で、昨年度に食品添加物を主成分とする剤として紹介したことがある（本誌第 57 巻第 3 号参照）。本成分の作用機作についても、本剤で実際に確かめられたわけではないが、抵抗性を誘導すると推察されている。今年、キュウリうどんこ病に散布で「実用性あり」と判定された。

NIMF-2002 粒剤はセル苗処理でハクサイ軟腐病、キャベツ黒腐病、レタス腐敗病に試験された。本剤の有効成分はプロベナゾール、アセタミプリド（モスピラン）であり、目新しくはないが、野菜類の初期の病害虫防除を担う剤として省力的な使用方法を目指している。本年度キャベツの黒腐病、レタスの腐敗病にセル苗株元散布で「実用性あり」と判定された。

3 芝草農薬（殺菌剤）

本年度、芝草（殺菌剤）は久しぶりに試験件数が増加

した。その要因には MTF-753 顆粒水和剤（三井化学：ペンチオピラド）、NF-160 顆粒水和剤（日本曹達：既知化合物、新規化合物）、BAG-034（BASF アグロ：新規化合物）、GG-215 水和剤（日本グリーンアンドガーデン：既知化合物、新規化合物）等の新規化合物を含む製剤が登場したこと、アゾキシストロビン（ヘリテージ）を含む混合剤が多数開発されたことによる。これらの多くは野菜や果樹の分野で開発が先行した化合物やその組み合わせで、いずれも芝草の病害には卓効を示すものと考えられる。芝草防除の現場では低葉量、低水量の製剤が求められており、これらの剤の登録への期待度は大きいと思われる。

4 最近のストロビルリン系化合物と べと病、疫病に卓効を示す成分

過去に、SBI 系統の薬剤の開発が盛んだったことがあり、多くの優秀なこの系統の薬剤が世に出た時期があった。その後化合物からみてこれほどのブームと思われるようなものはないにしろ、過去 10 年程度に目を向けてみれば、ストロビルリン系統の薬剤、またべと病、疫病

に特効的に効果のある薬剤が多く開発されてきている。成分の種類も増えたことから、今回あらためて以下に紹介した。

農業成分のストロビルリン系化合物が日本で登録されたのは 1997 年のクレソキシムメチル（ストロビー）が最初であり、その後、各社から様々な類似の化合物が開発されてきた。ストロビルリン系化合物は総じて、多くの病害に卓効を示すことから、いろいろな作物分野で、防除上重要な位置を占めつつある。現在、6 成分が実用化もしくは開発中であり、イネにおいては箱粒剤や水面施用剤等、野菜や果樹等では散布剤の単剤もしくは混合剤の 1 成分として、極めて多くの製剤がある。

また、作物のべと病や疫病に卓効を示す薬剤において古くはメタラキシル、オキサジキシルがあげられるが、現在もこの分野の開発意欲は高いと思われる。表-4 および表-5 に本年度日植防の新農薬実用化試験において試験された製剤を中心にこれらの成分と製剤をまとめてみた。今後、これらの系統の新規化合物またはそれを含まる混合剤に対する開発は進み、ますます多くの製剤が現

表-4 ストロビルリン系剤

H15 依頼	化合物名	薬剤名	対象作物	対象病害	処理方法	備 考
あり	オリサストロビン	嵐	イネ	いもち病・紋枯病	箱施用	混合剤多数あり 各種剤型あり
あり	メトミノストロビン	オリブライト	イネ	いもち病・紋枯病・ ごま葉枯病など	水面施用	
あり	トリフロキシストロビン	フリント	果樹・チャなど	斑点落葉病・黒星病・ 輪紋病など	散布	ベンチアバリアルブ イソプロピルまたは ボスカリドとの混合 剤
あり	ピラクロストロビン	プリメーロ, BJL-001WDG	野菜・果樹	黒斑病・白さび病・ べと病・疫病など	散布	
あり	アゾキシストロビン	アミスター, ヘリテージ	イネ・野菜・ 果樹・シバ	野菜果樹の各種病害	箱施用	
なし	クレソキシムメチル	ストロビー, ターフトップ	野菜・果樹・ シバ	野菜果樹の各種病害	散布	

表-5 べと病・疫病の専用剤

化合物名	薬剤名	本年度依頼のある対象作物	備 考
新規化合物 新規化合物 既知化合物 ベンチアバリアルブイソプロピル	NC-224 SYJ-446 TMF-9911 プロポーズ	ジャガイモ・ダイズ・トマト・メロンなど ジャガイモ・トマト・キュウリ・ハクサイ ハクサイ ジャガイモ・ダイズ・ナス・ トマト・メロン・スイカなど	TPN との混合剤
エタボキサム シアゾファミド	SCF-001 ランマン	ジャガイモ・トマト・キュウリ ジャガイモ・アズキ・ナス・ ダイコン・カブ・イチゴなど	
シモキサニル・ファモキサドン ジメトモルフ	ホライズン フェスティバル	ナス・ネギ ハクサイ・ホウレンソウ	シモキサニルは他剤との混合剤あり マンゼブ、銅との混合剤あり

れるものと思われる。

5 トマトハモグリバエ緊急対策

トマトハモグリバエは、1999（平成 11）年に沖縄県で初発が確認されて以来、年々発生地域を拡大し、2003（平成 15）年 11 月時点で全国 37 都府県で発生が認められる侵入害虫である。本種は従来発生していたマメハモグリバエやナスハモグリバエと形態・被害ともに判別が難しいうえ、これまでハモグリバエ類が問題とならなかったウリ科植物を中心に多発生が認められ、現場で大きな問題となっている。

このような状況から、トマトハモグリバエについては、農林水産省植物防疫課と協議のうえ、「緊急的な措置が必要な害虫」として、平成 13 年度から効果試験における実用性の判定を行ってきた。この措置を引き継ぎ、本年は「トマトハモグリバエ特別連絡試験」として、集中的に検討を行い、6 作物延べ 16 剤が「実用性あり」と判定された（表-6）。

6 イネクロカメムシ防除を対象とした薬剤

イネクロカメムシは、従来大きな問題となることが少なかった水稻害虫だが、ここ数年関東以西で発生が増加し、問題となっている。本虫は、6 月ごろから越冬成虫が水田に飛来・産卵し、6 月下旬ごろから幼虫が現れ始

表-6 平成 15 年度トマトハモグリバエ特別連絡試験にて実用性ありと判定された農薬

作物名	薬剤名
ナス	MTI-446 水溶液（顆粒）、MTI-446 粒剤 1、ガゼット MC フロアブル、トレボン乳剤
トマト	MTI-446 粒剤 1、カスケード乳剤、コロマイト乳剤、ダントツ水溶液、ダントツ粒剤
キュウリ	MTI-446 粒剤 1、アグロスリン乳剤、コロマイト乳剤
メロン	MTI-446 粒剤 1、アグロスリン乳剤
チンゲンサイ	トリガード液剤
コマツナ	トリガード液剤

める。成虫・幼虫ともイネを吸汁し、葉に黄白色斑点が生じたり葉先の黄化枯死がみられ、激しい被害では心枯れ茎の発生で減収することもある。現行の防除は、越冬成虫や若齢幼虫をねらった粉剤・液剤散布だが、新たに育苗箱処理や粒剤による湛水散布での防除が検討されているので紹介する（表-7）。

これらの薬剤は、ジノテフラン・クロチアニジン・チアメトキサムといったネオニコチノイド系の殺虫成分を含み、箱処理剤は長期残効性で、湛水散布の粒剤は高い水溶性で、効果が認められている。いまのところ「実用性あり」の判定は出ていないが、今後の試験状況が期待される。

7 野菜類の合成性フェロモン剤

合成性フェロモン剤の交信かく乱による防除は、複数成分を含み複数の害虫をターゲットとした混合製剤の登録で、ナシ・モモなど果樹類に使用が広がっているが、野菜類でも混合製剤の開発が本格化している。

コンフューザー V（信越化学工業（株））は、平成 13～14 年度にかけ、特別連絡試験で基礎的な効果を確認し、平成 15 年度からは、新農薬実用化試験の中で実用的な防除効果の検討がなされている。

試験では、キャベツやハクサイなど露地野菜で、コナガ・アオムシ・ヨトウムシ・ハスモンヨトウ・オオタバコガ・シロイチモジヨトウといった主要な鱗翅目害虫に、防除効果が認められている。

これまで、野菜類では単一の成分による単一の害虫をターゲットにした製剤しかなく、複数の作物と害虫で防除が必要な地域では性フェロモン剤を使いにくかったが、コンフューザー V のような使いやすい混合製剤の開発は、大いに歓迎したい。早期の登録による現場での使用が期待される。

IV 最近名称に変更があった薬剤

多くの薬剤は、初めて委託に出されるときにはコード番号などを薬剤名として使用しているが、登録に伴って

表-7 平成 15 年度イネクロカメムシを対象とした試験薬剤

薬剤名	成分名・量	使用方法
Dr.オリゼスタークル箱粒剤	ジノテフラン 2.0% プロベナゾール 24.0%	50 g/箱 育苗箱施用移植当日
MMH-2031 粒剤	ジノテフラン 2.0% プロベナゾール 10.0%	50 g/箱 育苗箱施用移植当日
MTI-142 粒剤	ジノテフラン 2.0% ジクロシメット 3.0%	50 g/箱 育苗箱施用播種時 覆土前～移植当日処理
MTI-446 粒剤 1	ジノテフラン 1.0%	3 kg/10 a 湛水散布
ダントツ箱粒剤	クロチアニジン 1.5%	50 g/箱 育苗箱施用移植当日
デジタルコラトップアクタラ箱粒剤	チアメトキサム 2.0% ピロキロン 12.0%	50 g/箱 育苗箱施用移植当日

商品名が命名される。また、商品名が付けられる前に何らかの事情で名称変更されることもあり、過去の試験と比較するとき、戸惑うこともある。そこで、最近名称に

変更があった薬剤の一覧表を作成した(表-8)。比較検討時の参考になれば幸甚である。

表-8 最近名称に変更のあった主な薬剤

旧薬剤名	変更後名称	成分名・量
(殺菌剤) BJL-994 顆粒水和剤 NOC-F002 SB-910 水和剤 S-8529 WDG リドミル DC 顆粒水和剤	カンタスドライフロアブル チオノックフロアブル インプレッション水和剤 アデル顆粒水和剤 フォリオブラボ顆粒水和剤	ボスカリド 47.0% チウラム 40.0% <i>Bacillus subtilis</i> 5 × 10 ⁹ cfu/g シモキサニル 12%, キャプタン 60% メタラキシル 10.0%, TPN 65.0%
(殺虫剤) ハマキ天敵フロアブル AVI-382 フロアブル 9761 フロアブル MKI-245 粒剤	ハマキ天敵 キラップフロアブル ダニエモンフロアブル アッパーカット細粒剤 F	リンゴコカクモンハマキ顆粒病ウイルス (AoGV) 1 × 10 ¹¹ /ml チャハマキ顆粒病ウイルス (HmGV) 1 × 10 ¹¹ /ml の混合物 エチプロール 10.0% スピロデイクロフェン 30.0% ベンクロチアズ 2.0%
(殺虫・殺菌剤) KUM-034 液剤 BA-1 粒剤 BA-2 粒剤 BT-1 粒剤	KUM-034 ゾル 嵐プリンス箱粒剤 10 嵐プリンス箱粒剤 6 嵐ダントツ箱粒剤	トリシクラゾール 8.0% ジノテフラン 10.0% オリサストロビン 7.0% フィブロニル 1.0% オリサストロビン 7.0% フィブロニル 0.6% オリサストロビン 7.0% クロチアニジン 1.5%

表-9 平成 15 年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤・抜粋 (病害防除: イネ・ムギ)

作物名	病害虫名	薬 剤 名	作物名	病害虫名	薬 剤 名
イネ	いもち病	AMH-221 粒剤, AMH-222 粒剤, BCM-031 粒剤, BCM-032 顆粒水和剤, HM-2032 粉剤 DL, HM-2033 粉剤 DL, HM-2034 フロアブル, HM-2035 フロアブル, KUM-031 粒剤, KUM-032 粒剤, KUM-033 粒剤, KUM-034 ゾル, MH-1002 粒剤, MH-2402 粒剤, NB-011 粒剤, NNF-9425MC, NNIF-0053 粒剤, NNIF-0351 粒剤, TM-1524 粒剤, プラストップダントツ粉剤 DL, ベンレート水和剤, 嵐プリンス箱粒剤 10, 嵐プリンス箱粒剤 6	イネ	穂枯れ (ごま葉枯病菌)	イモチエースリンバー粒剤, オリブライト 250G
				変色米	KUF-1402 粉剤 DL *, NNIF-0131 粉剤 DL **
				もみ枯細菌病	Dr.オリゼプリンス粒剤 6, HM-2033 粉剤 DL, ノンプラスフロアブル
				白葉枯病	Dr.オリゼスタークル箱粒剤, ビルダーププリンス粒剤
	いもち病 (葉)	M-1301 フロアブル, MMH-2031 粒剤		ばか苗病 (種子消毒)	キヒゲン R-2 フロアブル
	いもち病 (穂)	SYJ-154 (ジャンボ剤)	コムギ	赤かび病	SYJ-141SC, チルト乳剤 25
	紋枯病	HM-2032 粉剤 DL, HM-2033 粉剤 DL, KUM-033 粒剤, NNIF-0351 粒剤, 嵐プリンス箱粒剤 10, 嵐プリンス箱粒剤 6		赤さび病	SYJ-141SC, チルト乳剤 25
				雪腐小粒菌核病	AKD-5061 顆粒水和剤
				うどんこ病	SYJ-141SC

60 薬剤について延べ 344 試験が実施された。イネ関係ではプロベナゾール (薬剤名が AMH-, MH-, TM-などで始まる), トリシクラゾール (KUM-), フサライド (HM-) を含む混合製剤が目立った。いもち病のベンレート水和剤は播種時および播種 7 日後の灌漑処理により苗箱で発生するいもち病を防除する。コムギに実用性ありとなったチルト乳剤は少量散布での判定。SYJ-141SC はプロピコナゾール (チルト) とアゾキシストロビンを有効成分としている。*アルタナリア菌, **アルタナリア菌およびカーブラリア菌。

表-10 平成 15 年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤・抜粋（病害防除：野菜花き）

作物名	病害虫名	薬剤名	作物名	病害虫名	薬剤名		
ジャガイモ	青枯病	クロロピクリン 80.0%液剤	キュウリ	べと病	SCF-001 SC		
	軟腐病	マイコシールド		灰色かび病	MTF-753 フロアブル, トータレックス顆粒水和剤, ポリオキシシン顆粒水和剤		
	疫病	AVF-002 SC, SCF-001 SC		褐斑病	SB-3621 フロアブル, テーク水和剤		
	夏疫病	フォリオブラボ顆粒水和剤		菌核病	MTF-753 フロアブル		
	そうか病	ダブルストッパー		炭疽病	S-8529 WDG, SB-3621 フロアブル, SYJ-117 SC, フォリオブラボ顆粒水和剤		
ダイズ	紫斑病	SB-3631 DL, サンリットカルホス粉剤, サンリット水和剤, マネージトレボン粉剤 DL, マネージ粉剤 DL	メロン	うどんこ病	AKD-5121 液剤, MBF-123, NF-154 くん煙剤, S-2705 WP		
アズキ	灰色かび病	KUF-1204 顆粒水和剤, MTF-753 フロアブル, カンタスドライフロアブル		えそ斑点病	TMZ-9911 液剤, サンメボン, ダブルストッパー		
	褐斑病	キヒゲン R-2 フロアブル		べと病	TMF-9831 顆粒水和剤		
	菌核病	カンタスドライフロアブル		菌核病	カンタスドライフロアブル		
	茎疫病	HOF-2024 顆粒水和剤, TMF-9831 顆粒水和剤, フェスティバル C 水和剤, フェスティバル M 水和剤, プロポーズ顆粒水和剤, ランマンフロアブル		黒点根腐病	TMZ-9911 液剤		
	炭疽病	アミスター 20 フロアブル	つる枯病	SB-3621 フロアブル, SYJ-117 SC, テーク水和剤, フォリオブラボ顆粒水和剤			
インゲン	灰色かび病	KUF-1204 顆粒水和剤	つる割病	クロロピクリン錠剤			
テンサイ	褐斑病	DASF-0302 フロアブル, HOF-2023 顆粒水和剤, NNF-0222 顆粒水和剤, SYJ-119 SC, カスミンボルドー顆粒水和剤, ベンコゼブ水和剤	うどんこ病	NF-154 くん煙剤, SB-3621 フロアブル			
			根腐病	S-2727 顆粒水和剤			
コンニャク	根腐病	ソイリーン	スイカ	褐色腐敗病	SB-3621 フロアブル		
ナス	褐色腐敗病	プロポーズ顆粒水和剤, ホライズンドライフロアブル, ランマンフロアブル		菌核病	カンタスドライフロアブル		
				菌核病	カンタスドライフロアブル		
	すすかび病	MTF-753 フロアブル, ポリオキシシン AL 水溶液		炭疽病	SB-3621 フロアブル, SYJ-117 SC, テーク水和剤, フォリオブラボ顆粒水和剤		
	うどんこ病	GL-34 (スプレー), TGA-66 (エアゾル)		つる枯病	SB-3621 フロアブル, SYJ-117 SC, スコア顆粒水和剤, フォリオブラボ顆粒水和剤		
トマト	疫病	SCF-001 SC, TMF-9831 顆粒水和剤	うどんこ病	MTF-753 フロアブル			
	灰色かび病	トータレックス顆粒水和剤	カボチャ	うどんこ病	SYJ-117 SC, パンチョ® TF 顆粒水和剤, ポリオキシシン AL 水溶液		
	菱ちょう病	TMZ-9911 液剤, ソイリーン	ダイコン	白さび病	アミスター 20 フロアブル, フォリオブラボ顆粒水和剤		
	菌核病	カンタスドライフロアブル	ハクサイ	べと病	HOF-2024 顆粒水和剤, SB-3621 フロアブル, TMF-9911 液剤		
	うどんこ病	サンヨール		黒斑病	アミスター 20 フロアブル		
ピーマン	灰色かび病	アミスター 20 フロアブル, カンタスドライフロアブル	キャベツ	黒腐病	NIMF-2002 粒剤		
				うどんこ病	MTF-753 フロアブル, TGA-66 (エアゾル)	菌核病	アミスター 20 フロアブル, カンタスドライフロアブル
	ブロッコリー	べと病		ランマンフロアブル	根こぶ病	ネビジン顆粒水和剤	
		根こぶ病		ランマンフロアブル	コマツナ	白さび病	ランマンフロアブル

作物名	病害虫名	薬剤名	作物名	病害虫名	薬剤名
イチゴ	疫病	ランマンフロアブル	ミョウガ	根茎腐敗病	クロルピクリン錠剤, ランマンフロアブル
	灰色かび病	トータレックス顆粒水和剤	キク	半身萎ちょう病	デイ・トラベックス油剤
	萎黄病	NK-101, ソイリーン		白さび病	S-2705 WP, サルバトール ME, バイスロイド・バイレトン AL
	うどんこ病	NF-154 くん煙剤	立枯病		クロルピクリン錠剤
ネギ	べと病	SYJ-117 SC, フォリオブラボ顆粒水和剤	バラ	黒星病	サンヨール液剤 AL
	黒斑病	TF-991 フロアブル		うどんこ病	AKD-5121 液剤, GL-34 (スプレー), S-2705 WP
	白絹病	ダブルストッパー	カーネーション	萎ちょう細菌病	ダブルストッパー
	小菌核腐敗病	トップジン M 水和剤		サツキ・ツツジ	褐斑病
タマネギ	べと病	SB-3621 フロアブル	トルコギキョウ	立枯病	ソイリーン
アスパラガス	斑点病	アミスター 20 フロアブル	キンセンカ	うどんこ病	オルトラン C (エアゾル), ベニカ X スプレー
レタス	腐敗病	NIMF-2002 粒剤	ベチュニア	うどんこ病	ダブルプレー AL
	菌核病	MTF-753 フロアブル, ブロードワン顆粒水和剤	マサキ	うどんこ病	ベニカ X 乳剤
ゴボウ	黒あざ病	BJL-861 微粒剤	サルスベリ	うどんこ病	パンチョ® TF 顆粒水和剤, 花セラビー
ニンジン	黒斑病	ダコニールエース			
	黒葉枯病	SYJ-117 SC, TF-991 フロアブル, ヨネボン水和剤, ダコニール 1000 *			
ハウレンソウ	べと病	フェスティバル水和剤, ランマンフロアブル			

122 薬剤について延べ 946 試験が実施された。キュウリうどんこ病に実用性ありと判定された AKD-5121 液剤 (オオイタドリ抽出物), MBF-123 (オリゴサッカロイド) はいずれも抵抗性誘導が作用機作であると推察されている。NIMF-2002 粒剤はプロベナゾールを含む混合剤でキャベツ黒腐病, レタス腐敗病に実用性ありとなった。セルトレイの苗に株当たり 0.5 g を処理するもので, 体系防除における初期防除を受け持つ剤として実用性が認められた。*種子消毒処理。

表-11 平成 15 年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤・抜粋 (病害防除: 果樹・チャ・芝草)

作物名	病害虫名	薬剤名	作物名	病害虫名	薬剤名
ナシ	黒斑病	TF-991 顆粒水和剤 40		黒星病	スコア顆粒水和剤, マネージ DF
	黒星病	MTF-753 フロアブル 15, SF-0201 水和剤, インダーフロアブル		すす斑症	オーシャイン水和剤, スコア顆粒水和剤
	輪紋病	SF-0201 水和剤	ブドウ	べと病	HOF-2024 顆粒水和剤, IC ボルドー 66 D, NF-155 フロアブル, プロポーズ顆粒水和剤
	心腐れ症	バルノックスフロアブル		灰色かび病	MTF-753 フロアブル 15
モモ	せん孔細菌病	デランフロアブル, IC ボルドー 66 D	カキ	褐斑病	S-8529 WDG
	黒星病	マネージ DF		晩腐病	プロポーズ顆粒水和剤
スモモ	灰星病	インダーフロアブル, オンリーワンフロアブル, ベルクートフロアブル		さび病	アミスター 10 フロアブル
アンズ	かいよう病	アグレプト水和剤		炭疽病	オンリーワンフロアブル, スコア顆粒水和剤
ウメ	かいよう病	NF-155 フロアブル, スターナ水和剤	うどんこ病	ビオネクト	
	灰色かび病	ベルクートフロアブル			

作物名	病害虫名	薬剤名	作物名	病害虫名	薬剤名
リンゴ	斑点落葉病	MCF-23 WG 75, NF-156 フロアブル, TF-991 顆粒水和剤 40	チャ	炭疽病	ダコニール顆粒水和剤
	褐斑病	MCF-23 WG 75, ベンコシャイン水和剤, ベンコゼブ水和剤	シバ	ガラスポット病	SYJ-148 フロアブル, パナーマックス液剤
	モニリア病 (予防効果)	ALF-021 顆粒水和剤		フェアリーリング病	RGF-0301 WDG, SYJ-119 SC, SYJ-148 フロアブル
	輪紋病	テランフロアブル, ビオネクト, ベルクートフロアブル		疑似葉腐病 (春はげ症)	クルセイダーフロアブル
	すす点・すす斑病	MCF-23 WG 75		疑似葉腐病 (イエローパッチ)	グリーンエイト顆粒
	炭疽病	ビオネクト		カーブラリア葉枯病	SYJ-148 フロアブル
オウトウ	灰星病	BJL-001 WDG		葉腐病 (ブラウンパッチ)	NOJ-126 WG, RGF-0301 WDG, SYJ-119 SC, ヘリテージ顆粒水和剤
カンキツ	かいよう病	NF-155 フロアブル	葉腐病 (ラージパッチ)	SYJ-120 SC, SYJ-148 フロアブル, グリーンエイト顆粒水和剤, クルセイダーフロアブル	
	灰色かび病	アミスター 10 フロアブル	赤焼病	NOJ-126 WG	
マンゴー	炭疽病	ベルクート水和剤	ピシウム病	SYJ-119 SC	
チャ	褐色円星病	スコア顆粒水和剤, フリントフロアブル 25	さび病	サンヨール	
	もち病	スコア顆粒水和剤	炭疽病	クルセイダーフロアブル, ボディーブロー水和剤	
	輪斑病	SYJ-119 SC, アミスター 10 フロアブル			
	新梢枯死症	SYJ-119 SC, アミスター 10 フロアブル, ドイツボルドー DF			
	炭疽病	SYJ-119 SC, アミスター 10 フロアブル,			

落葉果樹については 43 薬剤延べ 238 試験、寒冷地果樹 (リンゴ・オウトウ) では 26 薬剤延べ 106 件の試験が実施された。常緑果樹 (カンキツ) は昨年より大幅に減少し、受託された試験は 10 薬剤延べ 31 試験であった。チャでは 13 薬剤延べ 67 試験が実施された。SYJ-119SC はアゾキシストロピンとジフェノコナゾールの混合剤である。シバの依頼は 22 薬剤あり 173 試験が実施された。ガラスポット病のパナーマックス液剤、葉腐病 (ブラウンパッチ) のヘリテージ顆粒水和剤は 1m² 当たり 0.05 l を散布する。

表-12 平成 15 年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤 (病害防除: 生物農薬)

作物名	病害虫名	薬剤名	作物名	病害虫名	薬剤名
イネ	いもち病 (穂)	ボトキラー水和剤	トマト	灰色かび病	KUF-1401 顆粒水和剤
	苗立枯病 (リゾープス菌)	エコホープ	ピーマン	うどんこ病	MBF-122 水和剤
	もみ枯細菌病 (種子消毒)	KUF-1203 水和剤, モミゲンキ水和剤	キュウリ	灰色かび病	KUF-1401 顆粒水和剤
	苗立枯細菌病 (種子消毒)	KUF-1203 水和剤, モミゲンキ水和剤	ネギ	白絹病	IK-1140 粒剤
	いもち病 (種子消毒)	エコホープ	レタス	腐敗病	CGC-7090 水和剤
	ばか苗病 (種子消毒)	KUF-1203 水和剤	ブドウ	灰色かび病	KUF-1401 顆粒水和剤
		カンキツ	灰色かび病	KUF-1401 顆粒水和剤	

15 薬剤について延べ 152 試験が実施された。中でも野菜・花き類等の灰色かび病・うどんこ病防除剤として知られているボトキラー水和剤が、今回イネの穂いもちに対して実用性ありと判定された。本剤は 3 年にわたり試験が実施され、発生状況により効果がふれる場合もあったが、おおむね実用的な防除効果が認められた。なお、本剤の特徴として、予防的に散布する (コメントとして付記)、複数回および散布水量が多い (200 l/10 a) 等、化学合成農薬と比較して使用方法が若干異なるものの、生物農薬としてはイネの本田防除分野では初めての判定であり、今後の展開が期待される。KUF-1203 水和剤はすでに登録のあるエコホープの剤型変更である。IK-1140 粒剤 (*Gliocladium virens* 1×10^6 cfu/g 以上) はネギの白絹病に対し、定植時に 100 ~ 200 l/10 a 全面処理する。本剤は土寄せ時処理については試験が継続されることとなった。

表-13 平成15年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤・拔粋(殺虫剤:イネ・ムギ)

作物名	害虫名	薬剤名	作物名	害虫名	薬剤名
イネ	ウンカ類	Dr.オリゼスタークル箱粒剤*3, MBH-41粒剤*8, MTI-446 1キロ粒剤*8, MTI-446粒剤2*4, OK-5102粒剤*4, キラップフロアブル*6, ダントツ粒剤*8, 嵐プリンス箱粒剤10*1.*2.*4, 嵐プリンス箱粒剤6*1.*2.*4	イネ	イネツトムシ	スピノエース箱粒剤*4, ランナーフロアブル*6, 嵐プリンス箱粒剤10*1.*2.*4, 嵐プリンス箱粒剤6*1.*2.*4
		FTAオビコヤガ			MTI-446粉剤DL*6, ダントツ粉剤DL*6
	ツマグロヨコバイ	BMC-2*5, Dr.オリゼスタークル箱粒剤*3, MTI-142粒剤*2, MTI-446液剤*7, OK-5102粒剤*4, ダントツ粒剤*8		イネドロオイムシ	AMH-221粒剤*2, AMH-222粒剤*2, BCM-032顆粒水和剤*5, NB-011粒剤*4, 嵐プリンス箱粒剤10*1.*2.*4
	カメムシ類	MBH-41粒剤*8, MTI-446 1キロ粒剤*8, MTI-446液剤*7, トレボンL粉剤DL*6	イネミズノウムシ	BCM-032顆粒水和剤*5, MTI-142粒剤*2, NB-011粒剤*4, 嵐プリンス箱粒剤6*2.*4	
イナゴ類	AMH-222粒剤*2	ムギ	アブラムシ類	ゲットアウトWDG*6, スミチオン乳剤*6, ペイオフME液剤*6	
ニカメイチュウ	AMH-222粒剤*2, OK-5102粒剤*4, スピノエース箱粒剤*4				

*1床土混和処理, *2播種時, *3緑化期, *4移植時, *5側条施用, *6散布, *7ブームスプレーヤー散布, *8湛水散布。

平成15年度はイネ・ムギ用に78剤, 延べ518件の試験が受託され, 昨年よりは若干減少した。新規殺虫成分で初めて実用性ありの判定を受けた化合物はなかった。実用性ありの判定を受けた剤には, 嵐プリンス箱粒剤10をはじめ, OK-5102粒剤やNB-011粒剤など, 新規殺菌剤との混合剤もみられ, 現場での充実が期待される。

表-14 平成15年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤・拔粋(殺虫剤:野菜花き)

作物名	害虫名	薬剤名	作物名	害虫名	薬剤名
ジャガイモ	テントウムシダマシ	ダントツ水溶剤	ナス	ワタアブラムシ	IKI-220粒剤
	ジャガイモシストセンチュウ	AKD-3088粒剤1.5		オンシツコナジラミ	ウララDF
サトイモ	ワタアブラムシ	アクタラ粒剤5		ハダニ類	ダニサラバフロアブル
	ダイズ	アブラムシ類		チャノホコリダニ	ハチハチ乳剤
ダイズ	カメムシ類	MTI-446粉剤DL, ダントツH粉剤DL, ダントツ水溶剤	トマト	コナジラミ類	チェス顆粒水和剤, 0161フロアブル, MTI-446粒剤1, ダントツ粒剤, バリアード顆粒水和剤, ベストガード粒剤
	ネキリムシ類	カルホス粉剤, ダイアジノン粒剤10		ミカンキイロアザミウマ	SI-0009乳剤
	ハスモンヨトウ	プレオフロアブル		ハスモンヨトウ	SI-0009乳剤
	フタスジヒメハムシ	MTI-446水溶剤(顆粒), MTI-446粉剤DL		オオタバコガ	NNI-0001顆粒水和剤, SI-0009乳剤
	トウモロコシ	アワノメイガ		ハモグリバエ類	MTI-446粒剤1
テンサイ	ヨトウムシ	カウンター乳剤	トマトサビダニ	オサダンフロアブル, モレスタン水和剤	
	テンサイトビハムシ	アクタラ顆粒水溶剤, ダントツ水溶剤	ネコブセンチュウ	AKD-3088粒剤, NK-101, TMZ-9911液剤	
	テンサイモグリハナバエ	アクタラ顆粒水溶剤	ピーマン	ミナミキイロアザミウマ	MTI-446水溶剤(顆粒), MTI-446粒剤1, アクタラ顆粒水溶剤, ダントツ水溶剤
コンニャク	ワタアブラムシ			モスピラン粒剤	

作物名	害虫名	薬剤名	作物名	害虫名	薬剤名
キュウリ	シルバーリーフコナジラミ	MTI-446 粒剤 1	イチゴ	ハスモンヨトウ	NNI-0001 顆粒水和剤
	ミナミキイロアザミウマ	ダントツ水溶剤		ハダニ類	ダニサラバフロアブル, マイトコーネくん煙剤
	ネコブセンチュウ	AKD-3088 粒剤, AKD-3088 粒剤 1.5		ネグサレセンチュウ	AKD-3088 粒剤
メロン	ウリノメイガ	バリアード顆粒水和剤	ネギ	ネギアザミウマ	ウララ DF
	ナミハダニ	ダニサラバフロアブル		ネギコガ	ハチハチ乳剤
	ネコブセンチュウ	AKD-3088 粒剤, TMZ-9911 液剤		ネギハモグリバエ	ダントツ水溶剤
スイカ	アブラムシ類	MTI-446 粒剤 1, ウララ DF	ニラ	ネギアザミウマ	アクタラ顆粒水溶剤
	シルバーリーフコナジラミ	ハチハチ乳剤	アスパラガス	アブラムシ類	ダントツ水溶剤
	ミナミキイロアザミウマ	アクタラ顆粒水溶剤	レタス	ネギアザミウマ	MTI-446 水溶剤 (顆粒), アクタラ顆粒水溶剤, ダントツ水溶剤
	ハダニ類	ダニサラバフロアブル		アブラムシ類	MTI-446 水溶剤 (顆粒)
	ネコブセンチュウ	AKD-3088 粒剤 1.5		オオタバコガ	NNI-0001 顆粒水和剤
ニガウリ	アブラムシ類	アクタラ顆粒水溶剤	ナモグリバエ	アクタラ粒剤 5	
	アブラムシ類	アクタラ顆粒水溶剤	ニンジン	ネグサレセンチュウ	AKD-3088 粒剤, AKD-3088 粒剤 1.5
ダイコン	キスジノミハムシ	MTI-446 粒剤 1	セルリー	マメハモグリバエ	トリガード液剤
カブ	コナガ	ハチハチ乳剤	バセリ	アブラムシ類	エコピタ液剤, ブルースカイ粒剤
	キスジノミハムシ	MTI-446 粒剤 1, ハチハチ乳剤	ハウレンソウ	モモアカアブラムシ	MTI-446 水溶剤 (顆粒)
ハクサイ	コナガ	MTI-446 粒剤 1, NIMF-2002 粒剤, NNI-0001 顆粒水和剤, NNI-0250 フロアブル, アクタラ粒剤 5	オクラ	ネコブセンチュウ	ソイリーン
	アブラムシ類	ダントツ水溶剤, ダントツ粒剤	シソ	アブラムシ類	ブルースカイ AL
キャベツ	ネギアザミウマ	プリンスフロアブル	レンコン	クワイクビレアブラムシ	アドマイヤー 1 粒剤
	コナガ	MTI-446 粒剤 1, NNI-0250 フロアブル, SI-0009 乳剤, アクタラ粒剤 5	キク	アブラムシ類	アクタラ粒剤 5, ダントツ粒剤
	ハイマダラノメイガ	エスマルク DF		ミカンキイロアザミウマ	アクタラ顆粒水溶剤, プリンスフロアブル
	タマナギンウワバ	DPX-062MP 水和剤		オオタバコガ	ブレオフロアブル
	カリフラワー	アブラムシ類	ハモグリバエ類	ダントツ水溶剤, MTI-446 水溶剤 (顆粒)	
ブロッコリー	アブラムシ類	ネグサレセンチュウ	アオバ液剤		
コマツナ	アブラムシ類	バラ	アブラムシ類	MTI-446 水溶剤 (顆粒)	
ミズナ	アブラムシ類	カーネーション	アブラムシ類	MTI-446 水溶剤 (顆粒)	
イチゴ	アブラムシ類	IKI-220 くん煙剤	チューリップ	アブラムシ類	ダントツ水溶剤
	ミカンキイロアザミウマ	モスピランジェット	ツツジ, サツキ	ツツジゲンバイ	MTI-446 粒剤 1, ダントツ水溶剤

平成 15 年度の依頼は 160 剤, 延べ 1,582 件の試験が実施され, 昨年と比べると薬剤数で 20 件ほど増加した。本年初めて実用性ありの判

定を受けた化合物は NNI-0250 フロアブル, ダニサラバフロアブルだった。登録農薬がないか少ない品目の, サイズ:ネキリムシ類, コンニャク:ワタアブラムシ, ニガウリ:アブラムシ類, キャベツ:ネギアザミウマ, コマツナ:アブラムシ類, ミズナ:アブラムシ類, ニラ:ネギアザミウマ, アスパラガス:アブラムシ類, アスパラガス:ネギアザミウマ, セルリー:マメハモグリバエ, パセリ:アブラムシ類, オクラ:ネコブセンチュウ, シソ:アブラムシ類, レンコン:クワイイクビレアブラムシに「実用性あり」の判定が出された。

表-15 平成 15 年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤・抜粋 (殺虫剤:果樹・チャ・シバ)

作物名	害虫名	薬 剤 名	作物名	害虫名	薬 剤 名
ナシ	アブラムシ類	MTI-446 水溶剤 (顆粒), 粘着くん水剤	カキ	チャノキイロアザミウマ	MTI-446 水溶剤 (顆粒)
	クワコナカイガラムシ	ダントツ水溶剤		ヒメコスカシバ	改良型スカシバコン
	カメムシ類	ダントツ水溶剤		カキノヘタムシガ	MTI-446 水溶剤 (顆粒)
	シンクイムシ類	ハチハチフロアブル	クリ	クリシギゾウムシ	TMZ-9911 液剤
	ニセナシサビダニ	コロマイト乳剤		クリミガ	TMZ-9911 液剤
モモ	カメムシ類	ダントツ水溶剤	イチジク	アザミウマ類	アクタラ顆粒水溶剤, ダントツ水溶剤
	ミカンキイロアザミウマ	ハチハチフロアブル	リンゴ	カメムシ類	MTI-446 水溶剤 (顆粒), バリアード顆粒水剤
	リンゴコカクモンハマキ	NNI-0001 顆粒水剤, コンフューザー MM		ナシヒメシンクイ	コンフューザー AA
	ナシヒメシンクイ	コンフューザー MM		ギンモンハモグリガ	MTI-446 水剤, NNI-0001 顆粒水剤
	モモハモグリガ	コンフューザー MM		シャクトリムシ類	NNI-0001 顆粒水剤, ファイブスター顆粒水剤, ファルコンフロアブル
	コスカシバ	トラサイド A 乳剤		リンゴハダニ	IKA-2002 フロアブル, ダニサラバフロアブル
	ハダニ類	ダニサラバフロアブル		ナミハダニ	ダニサラバフロアブル
	スモモ	アブラムシ類		ダントツ水溶剤	リンゴサビダニ
シンクイムシ類		ダズバン DF		オウトウ	カメムシ類
モモノゴマダラノメイガ		バリアード顆粒水剤	ハマキムシ類	SB-7231 顆粒水剤	
ハダニ類		タイタロンフロアブル, バロックフロアブル	オウトウショウジョウバエ	アクタラ顆粒水溶剤, バリアード顆粒水剤	
アンズ	アブラムシ類	アドマイヤー顆粒水剤	ナミハダニ	ダニサラバフロアブル	
ウメ	アブラムシ類	モスピラン水溶剤	カンキツ	アブラムシ類	粘着くん水剤
	モンクロシャチホコ	マトリックフロアブル		アカマルカイガラムシ	ダントツ水溶剤
ブドウ	コナカイガラムシ類	バリアード顆粒水剤	ミカンキイロアザミウマ	スピノエースフロアブル	
	フタテンヒメヨコバイ	MTI-446 水溶剤 (顆粒), アクタラ顆粒水溶剤	チャノキイロアザミウマ	SI-0009 乳剤	
	チャノキイロアザミウマ	SYJ-101 顆粒水剤	ネギアザミウマ	アドマイヤー顆粒水剤	
	ハダニ類	タイタロンフロアブル	ミカンハモグリガ	MTI-446 粒剤 1	
カキ	カメムシ類	S-1793WDG, アドマイヤー顆粒水剤	コアオハナムグリ	MTI-446 水溶剤 (顆粒)	

作物名	害虫名	薬剤名	作物名	害虫名	薬剤名
カンキツ	ケシキスイ類	MTI-446 水溶性 (顆粒)	チャ	チャノコカクモン ハマキ	SI-0009 乳剤, ハマキ天敵
	ゴマダラカミキリ	MTI-446 水溶性 (顆粒)		チャハマキ	ハマキ天敵
	ミカンハダニ	ダニサラバフロアブル		チャノホソガ	NNI-0001 顆粒水和剤
	チャノホコリダニ	ダニエモンフロアブル, ハチハチフ ロアブル		ヨモギエダシャク	NNI-0001 顆粒水和剤, スピノエー スフロアブル
	ミカンサビダニ	ハチハチフロアブル		カンザワハダニ	ダニサラバフロアブル
ビワ	ワタアブラムシ	アクタラ顆粒水溶性	シバ	シバツトガ	SYJ-112 乳剤
マンゴー	コナカイガラムシ 類	ダントツ水溶性		タマナヤガ (幼虫)	SYJ-112 乳剤, バイオトピア
	チャ	コミカンアブラム シ		スジキリヨトウ	SYJ-112 乳剤
	チャノミドリヒメ ヨコバイ	アクタラ顆粒水溶性		コガネムシ類	バイハンターフロアブル
	ウスミドリカスミ カメ	キラップフロアブル			

平成 15 年度の落葉果樹分野では 52 薬剤が依頼され、延べ 284 件の試験が受託された。寒冷地果樹分野では 43 剤が依頼、延べ 187 件が受託、常緑果樹分野では 39 薬剤が依頼、延べ 190 件が受託、チャ分野では 33 薬剤が依頼、延べ 119 件が受託、芝草分野では 11 剤が依頼、延べ 53 件が受託された。落葉果樹分野では、依然としてカメムシ関係の試験が多く、ハダニ剤で新剤の開発が盛んなことから、ナシ・モモを中心に、試験件数が増加した。チャ分野では、ウスミドリカスミカメやクワシロカイガラムシ・コミカンアブラムシなどを中心に試験が増加していた。これらの分野では、IKA-2002 フロアブルがリンゴ：リンゴハダニで、TMZ-9911 液剤がクリ：クリシギゾウムシ・クリミガで、初めて実用性ありの判定を受けていた。登録農薬がないか少ない品目では、スモモ：ハダニ類、ウメ：モンクロシャチホコ、カキ：ヒメコスカシバ、イチジク：アザミウマ類、リンゴ：シャクトリムシ、マンゴー：カイガラムシ類に「実用性あり」の判定が出された。

表-16 平成 15 年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤 (殺虫剤：生物農薬)

作物名	害虫名	薬剤名	作物名	害虫名	薬剤名
ナス	ハダニ類	ICB-01	イチゴ	ハダニ類	ICB-01
トマト	オンシツコナジラミ	ICB-02	カーネーション	ハダニ類	スパイデックス
	ハモグリバエ類	ICB-03	ポインセチア	シルバリーフ コナジラミ	エンストリップ
キュウリ	コナジラミ類	CAS-010			
シロナ	コナガ	トリコカプセル			

平成 15 年度の生物農薬連絡試験では、16 薬剤が依頼され、延べ 75 件の試験が受託された。既登録剤の主な作物での登録拡大が進み、登録に向けた試験は大幅に減少した。今後は、現地での防除体系確立に向けた試験が重要度を増すと思われる。

年刊資料

農薬適用一覧表 2003 年版 (平成 15 農薬年度)

農林水産省農薬検査所 監修 B5判 本文 867 頁
定価 13,650 円税込み (本体 13,000 円) 送料サービス

作物別・病害虫別に適用のある農薬名と商品名が一覧表になった資料です。稲用の種子消毒・箱施用剤、ブームスプレーヤ・常温煙霧および航空機利用 (無人ヘリを含む) などに適用のある農薬については別表にまとめました。

お申し込みは直接当協会へ、前金 (現金書留・郵便振替) で申し込むか、お近くの書店でお取り寄せ下さい。
社団法人 日本植物防疫協会 出版情報グループ 〒170-8484 東京都豊島区駒込 1-43-11
郵便振替口座 00110-7-177867 TEL (03) 3944-1561 (代) FAX (03) 3944-2103 メール: order@jppa.or.jp